伊豆・東部

美食や音楽楽しもう
28日に「港の街ＢＡＲ」

沼津市の沼津港周辺、ＪＲ沼津駅南口の商店街、千本浜公園周辺の3エリアで28日、街歩きをしながら地元の美食や音楽を楽しむ「第8回ぬまづ港の街ＢＡＲ（バル）」（同実行委員会主催）が開かれる。飲食を中心に81カ所の店舗・施設が参加する。

エリア内ではジャズライブや大道芸なども行う。来場者は5枚つづりのチケット（前売り3500円、当日4千円）を購入。各店でチケット1枚を特別メニュー1つと引き換える。船舶を利用したジオツアーや、シーカヤックなど体験メニューもある（チケット2枚分）。

時間は午前10時から午後9時まで。チケットの購入、問い合わせは、Ｍ－ｎｅｔパソコンスクール沼津校（電080・3716・6393）へ。

ホール客席800要望
熱海市複合施設 市民の会が意見交換

市民ホールに求める機能や規模について意見を交わす参加者＝熱海市の起雲閣

熱海市民有志で結成した「新・熱海市民ホールの有効活用を考える市民の会」（谷口成伸、滝野慶子両代表）はこのほど、ホールや図書館、会議室などを備えた複合施設を建てる市の計画「熱海フォーラム整備事業」に対する最後の意見交換会を市内の起雲閣で開いた。ホールの規模を「客席800席程度」などと求める要望書を森本要副市長に提出した。

市民の会は計5回の会議を重ね、7項目にわたる要望書をまとめた。ホールには、山梨県富士吉田市にできた富士五湖文化センターと同等の機能・設備を求めた。200席規模の多目的会議室やフードコートなどの設置も提案した。

市は骨子案で客席を「400席以上」としていて、約50人が参加した最後の会議はこの点に議論が集中した。「400席では東京から呼び込めない」「最低でも旧観光会館（約650席）と同水準にすべき」との意見が相次いだ。

森本副市長は過去の利用実績などを挙げ、「過大なモノは造れない」と理解を求めた。（熱海支局・荻島浩太）

スケボー協会下田で発足
賀茂地域の愛好者

賀茂地域のスケートボード愛好者5人が本年度、下田スケートボード協会を立ち上げた。「東京五輪の追加種目候補にも挙がっている健全なスポーツ」として、競技人口の拡大と下田市内での競技場開設を目指す。

下田スケートボード協会が始めた教室。競技人口の拡大を目指す＝下田市内

競技場開設目指す
裾野拡大も

同協会は4月から、下田市内でスケートボード教室を開催。参加者の年齢は幼児から40代までと幅広く、裾野を広げようと、初心者にもボードの乗り方から丁寧に指導する。

同会はスケートボードパークの開設も目指す。県東部には本格的なパークがなく、気軽に楽しむことができない。協会の教室も、定休日に店舗駐車場を借り、半円状の斜面の「ミニランプ」などを組み立てて開催している。

土屋仁志会長(33)は「スケートボードと聞いて、若者が駅前や公園で興じている迷惑な行為との悪い印象を抱く人がいるかもしれないが、滑走できる場所がないのが要因」と強調する。パーク設置を求め、署名活動を開始し今夏をめどに市に提出する方針。（下田支局・杉山諭）

観光誘客のヒント探る
富士宮高校会議所 浅間大社など訪問

富士宮市内5高校の生徒有志でつくる「富士宮高校会議所」は21日、開所後初めての定例会の一環で、市中心街のフィールドワークを行った。世界遺産富士山の構成資産の一つ「富士山本宮浅間大社」（同市宮町）などを訪れ、観光誘客につながるヒントを探した。

浅間大社の甲田吉孝権宮司が案内役を務めた。会議所のメンバー8人は、本殿や境内の湧玉池などを巡り、その造りやいわれを学んだ。甲田権宮司は講話で、同大社が古来から富士山を神体山として祭ってきた歴史や祖先・自然崇拝を説いた。

近くの商店街では、同市商店街